

苦手意識を克服する跳び箱の指導
-先行研究の理論とグループ学習をとおして-

教育実践高度化専攻
小学校教員養成特別コース
P10053B 梅田 康貴

I 研究の構成

第I章 問題の所在と研究の方法の概要

第II章 研究の方法

第III章 実習校での試みグループ学習を活用して
のとび箱

第IV章 研究のまとめ

II 研究の概要

1 問題の所在と研究の目的

近年の子どもたちは、スポーツジムやスポーツ少年団などに所属し運動に積極的に取り組む者が多く見られるようになってきている。一方、屋外で遊ぶことが減少し、体を動かすことが少なく、十分な運動をしないで成長してきた者も多い。

学習指導要領では新たに体力の向上の重視を目指す内容が盛り込まれた。その内容として、子どもの体力低下や運動をする子どもとそうでない子どもの二極化の傾向が見られると述べている。筆者もこの二極化については問題であると考えており、これらを少しでも改善できるような体育科の授業づくりを提案したい。

二極化を無くしていくには、小学校体育科の目標にもあるように、「適切な運動の経験を行い、運動することの楽しさ、喜びを実感できるような取り組み」が重要ではないかと考える。「適切な運動の経験」とは、児童が心身の発達の特性に合った運動を行うことによって、運動の楽しさや喜びを味わうことである。児童の運動に対する親しみを育てたい。したがって、児童の運動への能

力・適性、興味・関心等の状況に即した指導が意図的、計画的に展開されることが大切である。¹⁾

本研究では、「運動の楽しさ」「できた喜び」「仲間との共感」に重点を置いた授業を提案し、子どもたちの運動能力、運動意欲の二極化対策について考察したい。その具体的な取り組みとして、体育科の中でも、運動意欲の二極化がはっきりとする器械運動の「跳び箱指導」を中心に授業づくりを考えたい。

器械運動は、「できた!」というはっきりとした喜びと達成感があり、できた喜びを実感しやすい領域である。特に跳び箱は、跳ぶことができる、できないと個人の力量の差がはっきり表れる種目である。

体育科授業としては、教師の指示が目立つのではなく仲間と共感し合い、良いところを認め、子どもが積極的な姿勢で取り組めることが望ましいと考える。そのためにクラスの仲間から互いに助けあっているのびていけるような協同学習やグループ学習を取り入れた授業づくりをめざす。また、跳び箱における先行研究を読み解き、授業改善に結びつけたい。

2 研究の方法

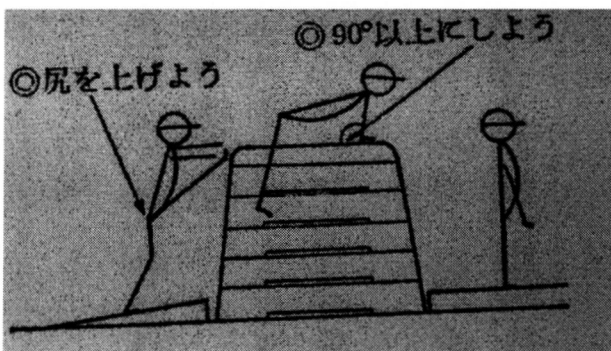
本実践では、協同学習からグループ学習へと修正を行った。本実践でのグループ学習は、旧来のグループ学習ではなく協同学習的な要素も用いながら実践に適した形のグループ学習を考えた。実践方法は、グループの協力体制を築き、話し合い活動を充実させ児童たちが自ら学ぶ学習形体

を取る。本実践のグループ活動においては、人間関係や互恵的な要素も取り入れているが、運営スキルや仕事の分担などの集団の決まりは活用していない。このように、本実践では話し合い活動を通して児童自ら発見、探求しグループを形成させる学習形態をとる。

また、児童たちが考えた方法だけでは解決できない問題や新しい知識を提示することが指導に求められ、向山洋一氏、小久保昇治氏、斎藤喜博氏の先行研究の指導法を基に提示することにする。

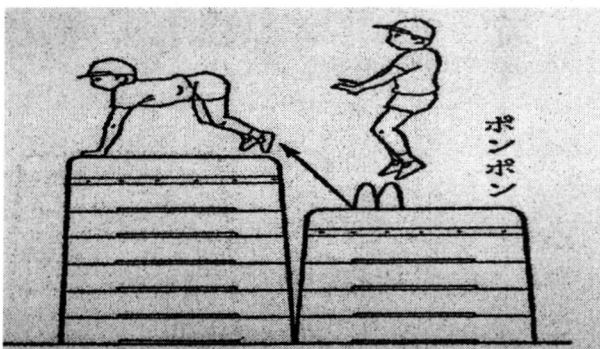
3 先行研究の指導法

(1) 向山氏による腕を支点とした体重移動



向山氏による腕を視点とした体重移動 (図1) ²⁾

(2) 小久保氏による感覚を養う指導法



小久保氏による感覚を養う指導法 (図2) ³⁾

(3) 斎藤氏の美に意識させた指導法

美しいフォーム、美しい形、美しく跳ぶための方法(向山氏、小久保氏の指導法)を児童学ばせることで美を形成する。

Ⅲ成果と課題

1 成果

三人の先行研究は、感覚や方法が掴めない児童やより美しいフォームで跳びたい児童に有効であった。向山氏は突き放しの感覚、小久保氏は跳び越時の姿勢を保つ感覚を掴ませるのに有効であった。斎藤氏は美しいフォームを意識させる授業にしたことで跳び箱が得意な児童にも目的を持たせることができた。

また、グループの教え合いが技能の向上にも効果があった。その他の児童に関しても、跳び箱が苦手な児童が上達していくことに喜びを感じ、学習意欲が向上している。また、教えたことを自分にも置き換えてとび箱に取り組めた。

2 課題

苦手な児童にとって本実践は大きな価値があった。跳びかたに関しても、段数に関しても成果は見られた。ただし単元全体を通して、6段を全員が跳べるようにはなっていない。20人中16人が6段、5段が3人、4段が1人となった。

また、グループ学習は、苦手な児童や一般的な児童にはある程度成果は見られるが、跳び箱が得意な児童には物足りなさをおぼえさせてしまった。

【註】

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』, 東洋館出版社, 2008年8月, PP.9-10
- 2) 中村央親「いろいろな跳び方を自ら求める授業」, 『現代教育科学』, 明治図書, 1981年9月号, P.79
- 3) 小久保昇治「みんなが跳び越せる跳び箱の段階指導」, 『現代教育科学』, 明治図書, 1981年9月号, P43